



ひゃく しやく かん とう

百尺竿頭

発行:札幌市青少年山の家
 住所:南区滝野247番地
 TEL/011-591-0303
 FAX/011-591-0394
 HP: <http://www.sapporo-yamanoie.jp>
 指定管理者/公助)さっぽろ青少年女性活動協会

災害を知り、共に生き抜く力を

私たちが住む日本は、四季の変化に富み、美しい自然景観に恵まれています。自然からたくさんの恩恵を受ける一方で、私たちの暮らしは台風や地震、洪水などの自然災害に見舞われる危険性と常に背中合わせにあります。私たちは長い歴史の中で、恩恵と災害のバランスの中で自然と共存をしてきましたが、近年そのバランスが崩れたかのように、想定を上回る大規模な災害が頻繁に起きるようになってきました。インターネットやニュースなど、画面をとおして伝わる自然災害はリアリティーに欠け「まさか自分の身には起こらないだろう。」という錯覚に陥りそうになります。しかし、楽観的に考えていると、いざ大きな被害に見舞われたときに、身を守るために十分な対応ができないかもしれません。多くの種類の災害が発生する日本で、いつ自分の身に降りかかるかもしれない災害に備える力が私たちには必要不可欠です。

青少年山の家では、平成26年度から小学3年生から6年生を対象に、野外活動を通して災害から身を守る力を身につけることを目的として「防災サバイバルキャンプ」を実施しています。



水の巻「汚水のろ過実験中」



上:地の巻「空缶ランタン作り」左下:地の巻:「避難所づくり」
 右下:「スノーシェルターづくり」

平成29年度は全5回実施し、それぞれで「水害・地震・火災・風害・雪害」とテーマ決めて、ライフラインの確保など、災害時に対応する力および備える方法を体験的に学習するほか、自らを守る「自助」から共に助け合う「共助」の大切さを知ることを目的に様々なプログラムを実施してきました。

人は、災害に遭遇して初めて、便利で安全な日常の暮らしの大切さに気づきます。プログラムの作成にあたっては、実際の災害を想定して電気、水道、暖房などのライフラインが使用できないなど、現実に近い状況を演出し、被災時の不便さをよりリアルに体験出来るような内容を意識しました。

子どもたちの中にも、回を重ねるごとに仲間と協力しながら課題に取り組む姿が多く見られるようになり、事業をとおして、もしもの時に自分の身を守ることはもちろん、他の誰かに手を差し伸べられる強さを身につけてくれていると実感できました。

人の力では変えることができない自然災害ですがこの事業をきっかけに、子どもたちの心に「減災」の意識が広がってくれればと願っています。

☆広報さっぽろが5月号から変わります。☆

今年の5月号からの広報さっぽろリニューアルに伴って、山の家主催事業などのイベント情報がお知らせのページへの掲載がなくなります。イベント情報のご確認には、地上波デジタルテレビ(STV5チャンネル)のデータ放送や、スマートフォンアプリ「iさっぽろ」もしくは区役所等で配布される冊子をご覧ください。また、山の家ホームページやフェイスブックページにも随時情報を掲載いたしますので、ご活用下さい。

事業報告

はじめての
スキーキャンプ

1月6日(土)～1月8日(月)2泊3日で「スキーも、ふゆもしぜんも、なかまも、まるごと大スキーになろう!」をテーマに、はじめてのスキーキャンプを実施しました。小学1年生～3年生の36名の参加者が、スキー学習が始まる前に少しでも滑れるようになりたい…苦手なスキーを克服したい…自分の事は自分でできるようになりたい…友達をたくさん作りたい…それぞれの思いを胸に切磋琢磨しながらキャンプに取り組みました。今回は、その様子を少しだけ紹介させていただきます!

2日目

朝は元気にリズムに合わせて体操!おいしい朝食を食べ、滝野スノーワールドへ出発です。全員がリフトに乗って、ゲレンデのてっぺんから滑るという目標も達成され、たくさんの自信に満ちた表情を見ることができました。夜は、2日間を振り返りキャンプファイヤー。全力で遊んで、仲間との出会いに感謝し、最後はみんなで「友達になるために」という歌を歌いました。グループでの一体感が強くなったように感じました。



1日目

朝9時。札幌駅に集合。はじめて親元を離れ宿泊する子が多く、緊張、不安、期待、いろいろな感情が入り混じる中、お家の人に見送られ山の家へ向けて出発。到着後は、さっそく山の家近くの緩斜面でスキーに挑戦です。思うようにうまくいかず、悔しい表情も見せる子もいましたが、最後まであきらめずに一生懸命取り組み姿が印象的でした。夜は、それぞれのグループでチューブ滑りやアイス作りを楽しみ、思いっきり冬を満喫しました。



3日目

スキーキャンプも終盤。自分たちが使った部屋の掃除をします。そしてグループでの最後の時間は、できるようになったことやグループでの思い出を語り合い、集合写真を使ってフォトフレーム作り。思い出を形に残しました。

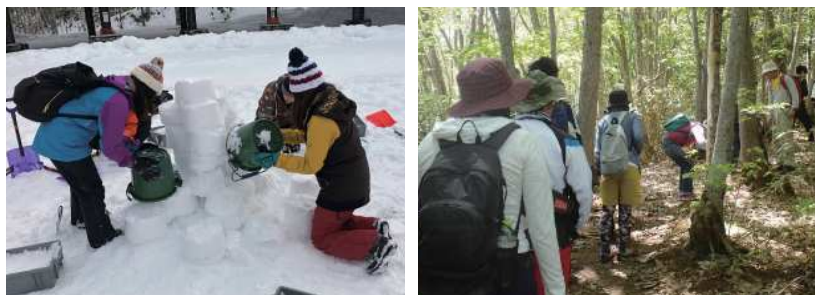


あっという間の3日間でしたが、スキーの上達はもちろん、協調性、自律性など、多くの面から子どもたちの成長が見られ、実りのあるキャンプとなりました。

事業報告

利用事前下見会

山の家を利用予定の札幌市内小学校の先生がたを対象に、合同の下見会を実施しました。年間で5回実施しており、そのうち4回は春～夏季利用校を、1回は冬季利用校を対象としています。全5回で174校494人の教員のみならずご参加いただきました。春～夏季の下見では、野外炊事や屋外キャンプファイヤーの体験、ハイキングや登山、沢探検の現地踏査を行い、冬季の下見ではスノーキャンドル作りやチューブ滑りの体験、スノーシューハイキングや歩くスキーの現地踏査を行いました。また、不安な部分を取り除いて当日を迎えられるよう、下見後は利用日当日の打ち合わせも実施しています。下見終了後には「実際に山の家職員に現地を案内してもらえて、当日のイメージが持てた」「利用打合せを行うことで、詳細についての確認ができて良かった」などの声を頂きました。



おすすめの
本

哺乳類の
フィールドサイン
文一総合出版
熊谷さとし(著) 安田守(写真)

野山を散策していても、意外と野生動物を見かけないなあ、と思ったことがある人がいるのではないのでしょうか?野生動物は、なるべく人間と出会わないように生活しています。そんな彼らも、歩いた道に、足あと、木の実をかじった痕、うんちを残していきます。これらはフィールドサインといい、本書では、フィールドサインを発見するコツが写真つきで紹介されていて、野生動物にたどり着くヒントが詰め込まれています。野生動物と同じ目線に立って野山を歩いてみるのも楽しいですよ! (アクア)



1月の利用者アンケートから

館内ウォークラリーのそのまま使える資料が大変助かりました。

→ありがとうございます。ウォークラリーは迷路のような館内を利用して遊ぶことのできるプログラムとして人気が高いです。また、HPの活動プログラムから簡単にダウンロードすることができます。荒天時の代替案として実施される団体も多いですが、複雑な作りをしている館内を知るという意味で、入館後、すぐに実施しても面白いのではないかと思います。



編集後記

今年は雪が少ないと心配していましたが、やはり帳尻をあわせてくれるのが北海道ですね…まだまだ例年よりは雪が少ないですが、草がポーポーで夏には入れなかった森にも、冬は入ることができたりととっても楽しいですよ! (A)

今年度もあと1か月となりました。春がやってきます!散策しながら植物や風景の写真を撮るのが楽しみです♪ (S)

山を家の周囲ではたくさんの野鳥や動物たちの姿や痕跡を見ることができます。厳し寒さを生き抜く彼らにぜひ会いに来てください (P)